
インモータルツ!!

小元 数乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

インモータルツ！！

【Nコード】

N3692Y

【作者名】

小元 数乃

【あらすじ】

とある異世界に、ある二つの大陸が存在していた。

ひとつは魔法が支配する大陸《天草》。もうひとつは超科学と超能力が支配する《日ノ本》。

大昔に戦争があつたりしたが、今はいたって友好的な二つの大陸が、最近になってある試みを行うことになった。

そうだ……留学生を送ろう。

「そうだ……京都に行こう」以上に軽いノリで決められたそれに、天草に住む主人公・松壊シシンは選ばれてしまい、留学生として日本に送り込まれる！！

だが、シシンは実は魔法の使えない欠陥魔法使いで……！？

異能が使えないのに超能力者だらけの国に放り込まれてしまったシシンははたして無事に留学生生活を終えることができるのかっ！？

プロローグ（前書き）

ほかにも小説かかえてんのに何やってんの？

と言われそうではありますが……あえていわせてもらうと、こっ
ちを本職にしたいんですよー

時間が空いたときにしか更新しないので、かなりの亀更新となり
ます。あしからず（<ー>）

ブローグ

モクモクと上がる灰色の煙。シャッターは無残に吹き飛び、がれきの山が入り口をふさいでる銀行。それを見て騒然としている野次馬たちを、紺色の制服を着た警官たちが何とか抑えている。

「状況は？」

そんなやじ馬たちを何とか切り抜け、けたたましい音を鳴らしながら止まったのは警察専用車両。そこから降りてきたのは高校生ぐらいの少女だった。

「最悪です……。なぜだかはわかりませんが、銀行が爆発しました」

現場で特殊なスーツを着てライフルを持っていた特殊警察の報告を聞き、その少女は思わず眉をしかめる。

ここは学園国家『日ノ本』の巨大学園都市の一つ『第六学園都市』内のとある銀行。さっきまで銀行強盗＆立てこもり事件現場だったところである。犯人グループは十二人の連携プレーにより瞬く間に銀行を占拠。銀行員十数名を含む、52人の人質を取り警察に逃走用の車を要求してきたのだ。

そこで呼ばれたのが彼女——この学園国家《日ノ本》の治安を守る《クラス4》——戦略級超能力者が揃えられた武装警察組織《法律^ル》であつたのだが。

その彼女が到着する前に事件は終わってしまった。人質もろとも犯人が爆死するというとんでもない事態によって。

「どうして犯人は爆死なんか……。逃走用の車を要求していたのだ
ったら、死ぬつもりはなかったんでしょ？」

「わかりません……。いま他の班が入って現場検証を行おうと
しているところ……」

悲しそうに顔を伏せる少女に警察官が更なる状況説明をしようと
したときだった！

銀行内部から、雷を纏った独鈷杵が飛び出してきて、銀行の出入
り口をふさいでいた瓦礫を瞬時に吹き飛ばした！！

「「なっ！？」」

少女と警察官が固まってその光景を見守る中、錫杖を持った少年
が二人の仲間と共に、残った瓦礫を押し分け数十人もの人質を抱え
ながら銀行内部から出てきた。

「シシンの野郎……。後始末全部おれたちに任せてトンスラこきや
がった！！」

「むしろ彼が手伝ってくれただけでも行幸よ。いつもは逃げ回って
ばかりなんだから……」

「しかしもうちょっと『すまあと』な解決方法はなかった
ものか？ おかげで生き埋めになりかけたではないか……」

黒髪に茶色い瞳を持った彼らは、口々にそんなことを言いながら
次々と銀行内部から人質を運びだし、外で呆けていた警察に彼らを

手渡していく。

「ほらよ。さっきまで極限状態にいたんだ。あんま手荒なまねはすんなよ」

「あ、はい!!」

リーダー格と思われる錫杖を持った少年からそう言われ、手渡された少女をしっかりと抱え直し、一人の警官が敬礼をする。

その光景を見て、ほかの警察たちもようやく意識が帰ってきたのか銀行内から運び出されてくる人質や、ぐるぐる巻きにされ気絶している銀行強盗達に駆け寄っていた。

「また魔法使いかれらね……」

「魔法使いがこっちに来てからは助けられっぱなしですね。それに犯人もろとも死亡というのも我々の早とちりだったみたいで……」

苦笑を浮かべて肩を竦める少女に、警察官は無線を取り、苦笑を返しながらそう言った。

「ほんと……彼らもう《法律ルール》に入ればいいのに」

「それはだめよ……だって彼らは」

少女はそこで言葉を切り野次馬の中に視線を走らせる。そして有象無象の野次馬の中から、ボロボロになった和服に閉口しながら人ごみの中に消えていく銀髪の少年を見つけた。

「留学生なんだもの」

少年はガリガリと頭をかきながら、輪ゴムを使つて腰まである長髪を肩あたりでまとめ直す。そして、事件現場を振り向き、少女と目が合っていることに気付くと『ゲッ！』といわんばかりの表情をしてすたこらサッサと逃げていった。そんな少年の後ろ姿に、少女はため息をつくのだった。

1話

『昨日起きた銀行立てこもり事件を解決したのは、またあの《魔法大陸》天草からやってきた勇敢な留学生の方々でした。これで彼ら留学してきてから解決した事件は20件を超えましたね』

『いやゝ。まったく頼りになる子たちですよ。まさしく《魔法使い》といった感じですね。今のところ彼らはいずれ故郷に帰る人間ということで《法律^{ルール}》入所は見送られています、次の国家間交渉で彼らの《法律^{ルール}》入りが許可されるかもしれないという噂もありますし……今後の彼らの活躍に期待したいですね!!』

むやみやたらにハイテンションな声で、留学生を賛美するテレビ画面内のナレーターたち。彼らを三白眼で睨みながら松壊^{しょうかい}シシンはリモコンを操作し、テレビの電源を切った。

ごくごく一般的な2LDKの学生寮の室内には、無数の段ボールが積み重ねられておりシシンがここに来てまだ間もないことを示している。

こいつら、俺らが留学してきたときには『魔法なんて……はっ！ 非科学的ですよゝ。げらげらゝ』とか言つとつたのにえらい掌返しよつたなゝ。

といわんばかりの表情をしながら、シシンは朝食に使った紙製の食器たちをごみ箱に捨て、食卓の近くに設置してある安物の輪ゴムが入った箱の中に手をつっ込んだ。

六つの魔法と一つの奇跡が支配する《魔法大陸》天草から、六つの都市と一つの財閥が支配する《学園国家》日ノ本にシシンが留学

してから早一週間がたった。今のところ彼は、彼の友人たちが遭遇したような、ブラウン管に映るような非日常的な事件に遭遇したことはなく平和な生活を送っていた。表向きには……ではあるが。

ただでさえ悪目立ちする容姿しとるんや。これ以上目立ってたまるかいな。

そう思いながら、彼は鏡に映る自分の姿に嘆息した。

白銀の長髪に、血のように赤い瞳。肌は抜けるような……というか白いペンキでもぶっかけられたんじゃないの？　といわんばかりに白く、ともすれば病的な印象を受けてしまう。日ノ本ではアルビノと呼ばれる色素異常だそうだ。天草にいたころは『小麦色の肌を俺にくれ』と日光浴を一日中していたのだが、結局肌がひりひりしただけで色が変わることはついぞなかった。おまけに、それを聞いた彼の主治医が、ものすごい勢いで怒ってきたのでもう二度とやらないことを心に誓っている。

そんな色素が抜けた容姿は天草や日ノ本でも非常に珍しく、いろいろと質問攻めにあってしまっただが、いまは懐かしい昔話だ。

「まったく……。うちの一族はホンマ難儀なみためしとんで。こんな容姿を授けた親父を呪い殺したるか？」

まあ、そんなんできたら苦労し〜ひんけど。と、呟きながら、シンは腰まで届く長い銀髪を、先ほど箱からつかみ取った輪ゴムを使い肩のあたりでまとめながら台所に向かう。髪をまとめる道具が輪ゴムのところを見ると、あまり見た目には気を使わないたちのようだ。着ている服は制服。一般的な黒の詰襟。シンは色の中では黒い好みなので、この国では野暮ったいといわれ絶滅しつつあるこ

の制服に喜んで袖を通している。

シシンはガスの元栓がしまっているのを確認。流しにおいてあった弁当を引っ掴み、台所に立てかけるように置いてあった鞆の中に放り込む。

「ほな、そろそろ時間やし……いつてくるわ」

誰もいない学生寮の一室に、一人さびしく挨拶をしながらシシンは靴を履き部屋を飛び出す。

本日の日時は5月10日。一週間の入学研修を終え、松壊シシンは初めて、高校へと登校する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3692y/>

インモータルツ!!

2011年11月15日18時15分発行